

令和8年度 横浜市立笹野台小学校 学校経営方針



学校経営方針 目次

はじめに

1 教育活動の方針

2 本年度の具体的取り組み

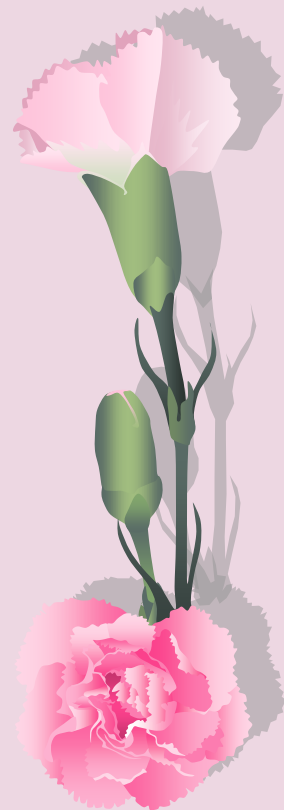
◇学校紹介(ホームページより)

◇学力向上について

◇健やかな体の育成について

◇豊かな心の育成について

◇今年度の重点研究について

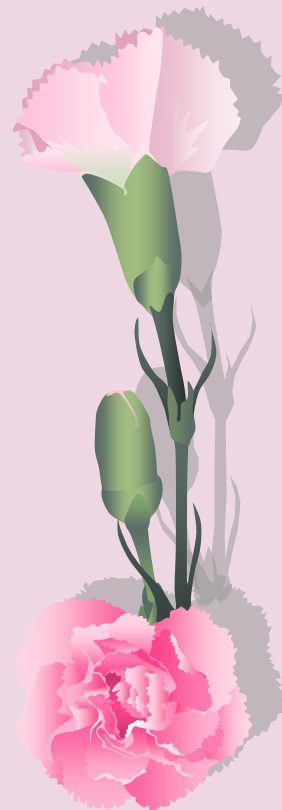


はじめに

❁ 笹野台小学校では、子どもたちの豊かな成長のため、よりよい教育活動を進めるべく、継続していくもの、改善していくものについて、毎年検討を重ねております。子どもたちの思いをくみ取るとともに、保護者の皆様、地域の方々のご意見を参考にさせて頂きながら、学校経営方針について学校運営協議会・地域学校協働本部の方々との連携・協力のもと学校教育目標の実現に向けて努めてまいります。



Ⅰ 教育活動の方針

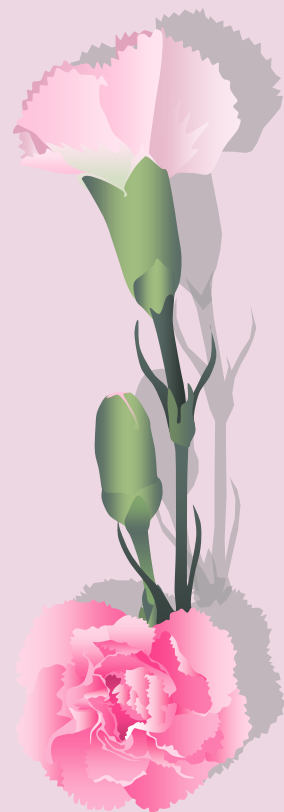


【横浜の教育が目指す人づくり】

自ら学び 社会とつながり
ともに未来を創る人

横浜の教育が育む力

知 生きてはたらく知
徳 豊かな心
体 健やかな体
公 公共心と社会参画
開 未来を拓く志



横浜の教育の方向性

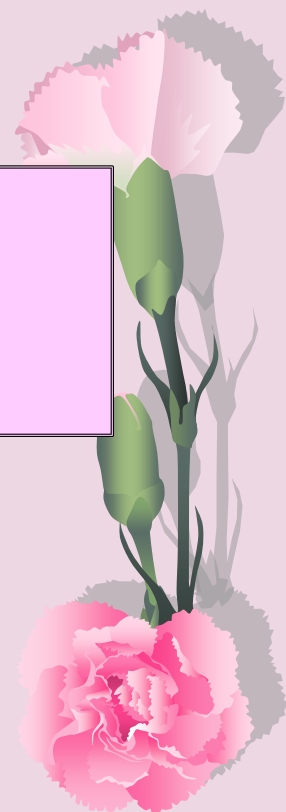
- ① 子どもの可能性を広げます
- ② 魅力ある学校をつくります
- ③ 豊かな教育環境を整えます
- ④ 社会全体で子どもを育みます



希望が丘中学校ブロックの教育目標
「9年間で育てる子ども像」



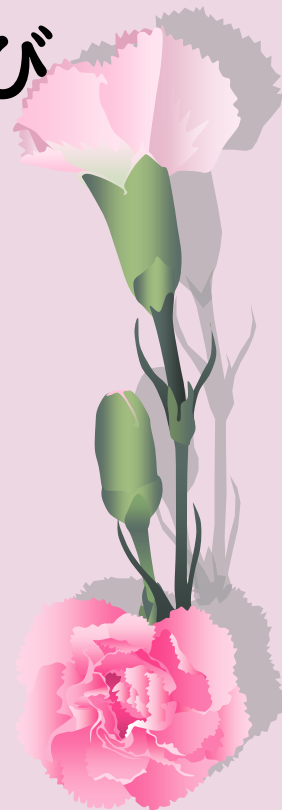
笹野台小学校教育活動の方針へ



【学校教育目標】

希望が丘中学校ブロックの 「9年間で育てる子ども像」

- ①課題に向き合い、主体的・対話的に学び続ける子ども
- ②互いを認め合い、社会とのつながりを大切にする子ども
- ③目標に向かってチャレンジし、自信をもって行動できる子ども



【笹野台小学校学校教育目標】

自ら学び 人と関わり ともに高め合う
笹野台の子ども

知：自分の考えを表現する子を育てます。

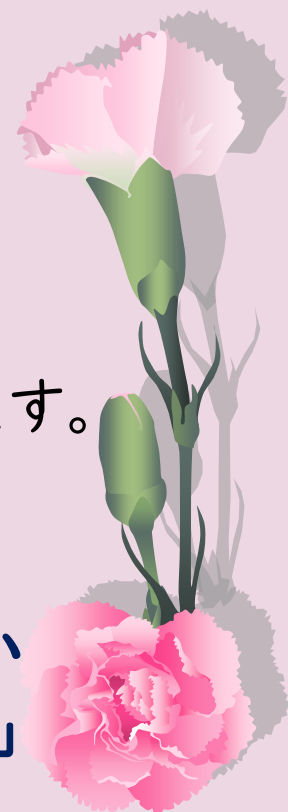
徳：思いやりの心をもった子を育てます。

体：心身ともにたくましい子を育てます。

公：様々な人や地域との関わりを大切にできる子を育てます。

開：社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。

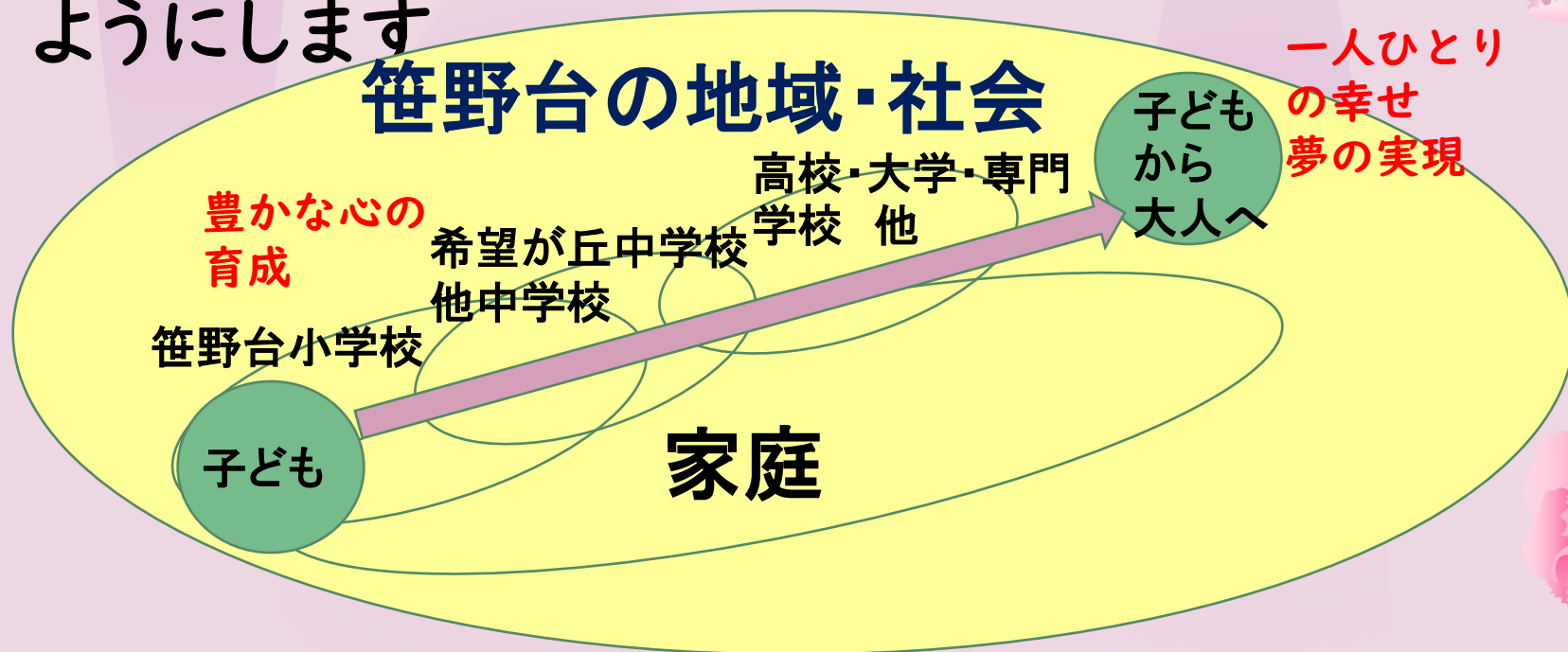
合言葉 「元気いっぱい やさしさいっぱい 笑顔いっぱい
心かがやく笹小キッズ」



【笹野台小学校がめざすもの】

☆学校・家庭・笹野台の地域の方々と連携して、
子どもたちを育てます。

☆子どもたちの心の豊かな成長をめざし、幸せになるために必要な基礎・基本の力を身に付けるようにします



【学校教育目標の実現に向けて①】

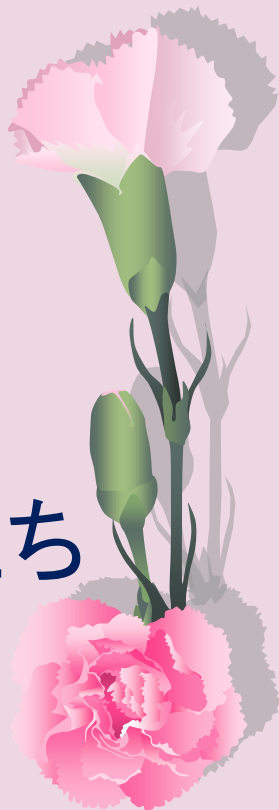
こんな子どもたちの姿が見える学校を！

1 自信をもって活動する子どもたち

2 当たり前前のこと

当たり前前にできている子どもたち

3 自己有用感をもってかがやく子どもたち



1 自信をもって活動する子どもたち を育てるために大切にすること

※一人ひとりが認められ、自分の居場所がある学校

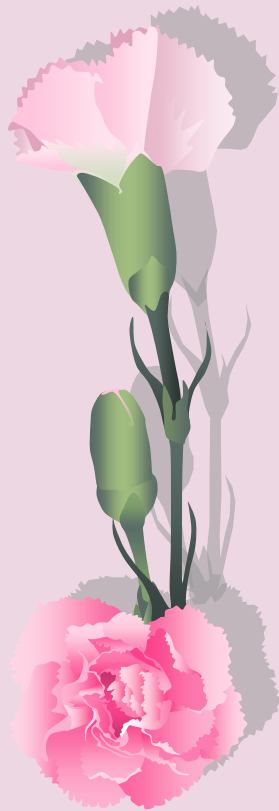
※一人ひとりが大切にされる空間

※人権尊重の精神に基づく学級・学年経営

※大きい声で安心して自分を表現できる集団

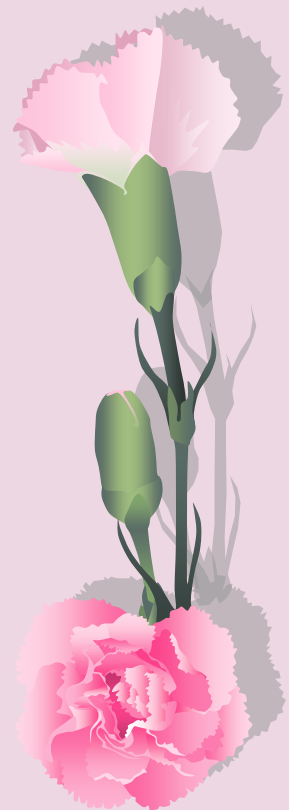
※分かった！できた！もっと知りたい！

があふれる学習環境



2 当たり前前のごことが当たり前前にできる子どもたち を育てるために大切にすること

- ※話をしっかりと聞くこと 返事をするこゝ
- ※相手と目を合わせてあいさつをするこゝ
- ※掃除に一生懸命に取り組む
- ※時間を守る
- ※ものを大切にすゝ
- ※人を大切にすゝ
- ※みんな違ってみんないいの意識



3 自己有用感をもってかがやく子どもたち を育てるために大切にすること

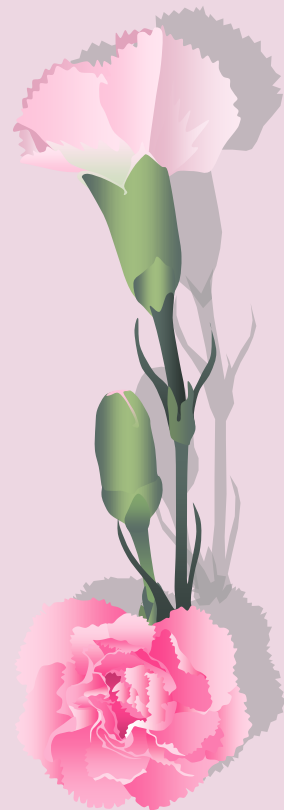
※誰かのために役立つ経験の積み重ね

※「ありがとう」があふれる活動

※学級活動、委員会活動の充実

※異学年交流・ペア活動の充実

※地域社会の一員として協働する活動



【学校教育目標の実現に向けて②】

笹野台小学校の教職員として

(1) 一人ひとりを大切にした授業

分かった、できた、があふれる授業

(2) 深い児童理解と愛情あふれる児童指導

誰もが大事にされている安心感

いじめはゆるさない姿勢

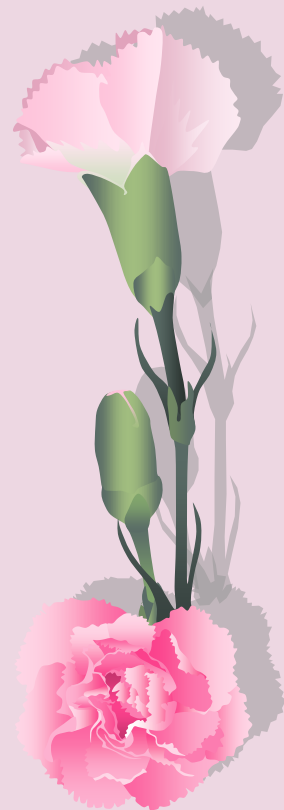
(3) 子どものよきモデルとなる教職員

高い人権意識をもち、温かく思いやりのある教職員

(4) 互いに高め合う教職員

計画的な重点研究、研修会による指導力向上

子どもの成長を共通目的としたチーム笹野台



令和8年度の教育活動について

(1) 授業時数

昨年度、週当たりの時数を以前より各学年1時間減らし教育活動を進めてきました。授業の余剰時数を含めた標準時数を確保できるとともに、放課後の時間の創出もできました。今年度も同様の日課表で進めてまいります。

(2) 「すぐる」での配信・連絡・提出

- ・ 児童調査票等の提出書類を電子で行います。
- ・ 学校だより、学年だより、保健だより、給食だより等の配付プリントは電子でお届けしています。
- ・ 「すぐる」で欠席連絡をお願いしています。
- ・ アンケートや承諾書等提出も電子でお願いします。



(3) 放課後学習支援「まなびっこ」

地域の方の協力を得て、放課後学習支援「まなびっこ」を実施しています。個に応じ必要な学習について助言しています。「まなびっこ」の教材は、個に応じた教材を用意したり自分で必要なプリントを選んだりして学習します。対象学年は1年生から3年生です。

(4) タブレット端末の活用について

学年に応じて毎日だったり、週に数回だったりとは様々ですが、端末を持ち帰っています。自宅で、AI電子ドリルや調べ学習を行ったり、カードや新聞を作成したりします。電子ドリルは、個に応じた学習問題がAIにより用意されます。

*** 中学3年生までの学習問題についていても、自由にチャレンジできます**



AI電子ドリルについては次の通りです。

1年生、2年生は、算数 国語

3年生、4年生は、算数 国語 社会 理科

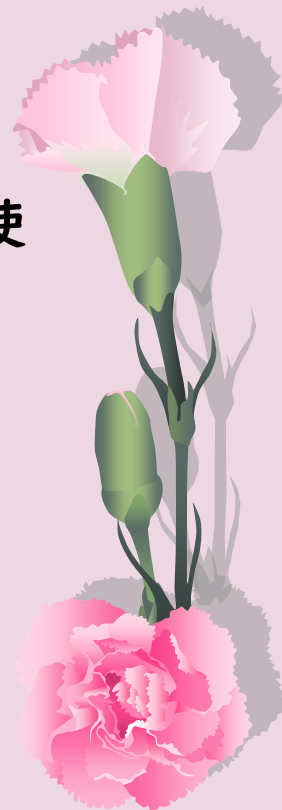
5年生、6年生は、算数 国語 社会 理科 英語

【留意点】

タブレット端末、スマートフォン、パソコン等の画面を見る時間が長くなり、目が疲れる等身体に与える影響が大きくなる、人と関わる時間が一層少なくなるなども考えられるため、次の点を考慮する。

→ 授業では友達と関わったり対話的な学習をさらに進めたりする。

→ 長時間画面を見たら休むなど、健康に留意して効果的・効率的に使用するよう指導する



(5) チーム学年経営と教科担任制

5, 6年それぞれにチームマネージャーをおき、学級担任とともに複数体制で教育活動を進めてまいります。専科教員を含め、教科分担で指導することにより、子ども一人ひとりの見取りを確かなものにするのができ、個別最適できめ細かな指導ができると考えます。また、個を多面的に見ることだけでなく教職員の授業における教材研究や準備時間の削減、授業力向上にも役立つものと思われれます。

(6) 卒業アルバム

令和6年度より、卒業アルバムは写真のみの掲載としています。業者委託であり、学校では作成を一切行いません。購入は希望制となります。購入しない、写真掲載を望まないなどのご要望等があればご相談賜ります。



(7) 電話の録音機能を使用する場合あり

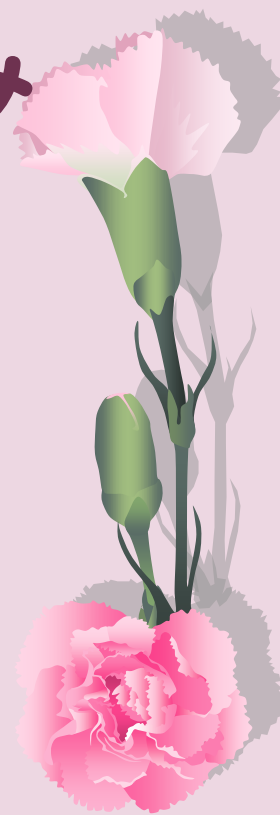
保護者の方との電話を録音させて頂く場合があります。双方で聞き取りにくい、聞き間違い、勘違い等が発生することがありました。そういったことが家庭と学校とのすれ違いになると、子どもがかわいそうです。また、いじめのご相談など、深刻な訴えを正確に記録・把握し、担任や学年だけでなく、学校をあげてチームを組織し、ケースに応じた適切な対応策を立て、外部の関係機関と連携して動くためにも必要です。

(8) 欠席が長引いた場合の対応

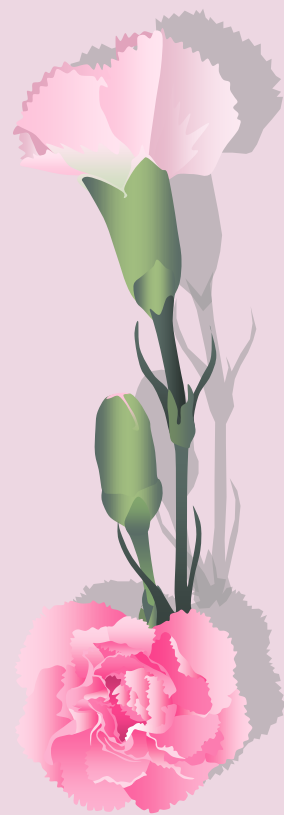
学校に来ることができない期間が数日あった場合、お子様の状況把握のために家庭訪問や学校での面談をさせていただきます。また学習保障については、どこでもスタディ等のオンライン授業、ロイロノートスクールやプリントなどのやり取り等、お子様、保護者の方とご相談して、対応いたします。



2 本年度の具体的な取り組み



学校紹介 (ホームページより)



学校ホームページ

笹野台小学校

検索



学校行事や子どもたちの活動の様子、教職員の様子などをホームページ内の「学校日記」で紹介しています。

今日の学習の様子から・・・

新着



教室では、学習に一生懸命取り組む子どもたちの真剣な表情が見られます。1年生はブロックを使って数の学習が進んでいます。図工室では自分の思いを画用紙いっぱいに表現しています。理科室では物を燃やし二酸化炭素を確かめる実験を行っていました。音楽室では「琴」の音色や楽譜の見方を知り、タブレット上の「琴」を弾いて確かめていました。みんなで協力してがんばる様子がたくさん見られます！

登録日: 2026年4月27日 / 更新日: 2026年4月27日

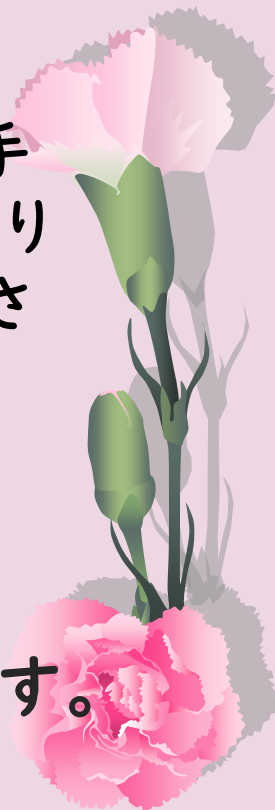
すぐーる配信と同様の内容をホームページに掲載することもありますので「お気に入り」登録をお願いします。



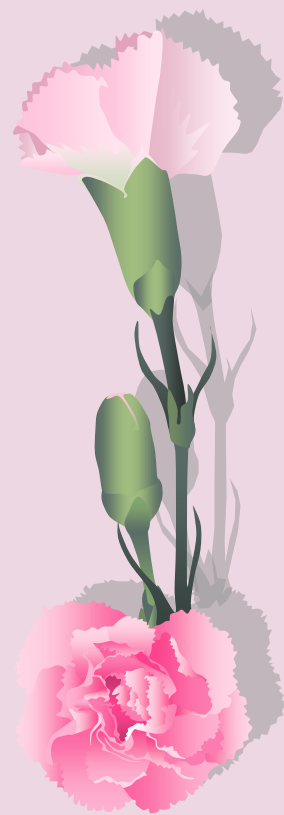
The screenshot shows the homepage of Sasanodai Elementary School. The header includes the school's name in Japanese and English, a search bar, and a 'ホーム' (Home) button. The main content area features a navigation menu on the left with items like '学校紹介' (School Introduction), '学校経営' (School Management), '学校だより' (School News), '学校日記' (School Diary), '教育相談' (Education Consultation), '災害時の対応' (Disaster Response), '転入学について' (About Transfer), '笹野台小学校PTA' (Sasanodai Elementary School PTA), '学校からのお知らせ' (Notice from School), and '笹野台小50周年' (Sasanodai Elementary School 50th Anniversary). The main content area has a section titled '★★★学校教育目標★★★' (School Education Goals) with sub-sections: '自ら学び 人と関わり ともに高め合う 笹野台の子ども' (Learn on your own, interact with others, and grow together, children of Sasanodai), '☆☆☆合言葉☆☆☆' (Slogan) with '元気いっぱい やさしさいっぱい 笑顔いっぱい' (Full of energy, full of kindness, full of smiles), and '心かがやく笹小キッズ' (Sasanodai Kids whose hearts shine). Below this is a photo of the school building. On the right, there is contact information: 'お問い合わせ先' (Contact Us), phone number '241-0816', address '横浜市旭区笹野台4丁目48-1', phone '045-362-0450', fax '045-362-0401', and website 'アクセス' (Access). A social media link '@yokohama_kyouiからのツイート' (Tweet from @yokohama_kyoui) is also present. A 'リンク集' (Link Collection) section at the bottom left includes 'Y・Y NET' and 'はまっ子学習ドリル' (Hama-kochi Learning Drill).

年間行事予定や災害時の対応、転入学の手続きなども掲載してありますので、ご参照ください。

よろしくお願ひします。



学力向上について



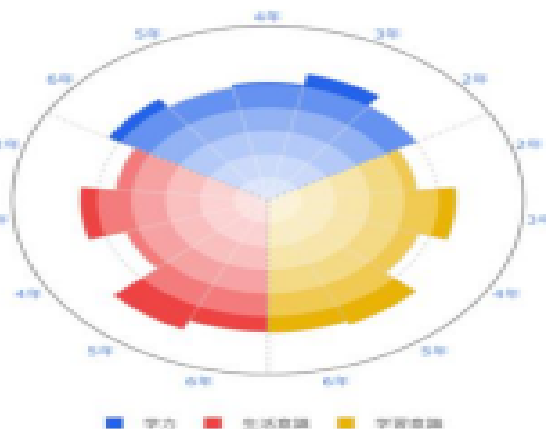
学力向上プラン

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
授業改善	①学校教育目標実現に向けて、「自ら学習を調整する姿」、「ともに高め合う姿」の具体を共有し、そのためにどのような授業デザインをするのか、研究授業を通して検討する。②グループワークで活用できるようなA2版のホワイトボードやロイロノートや掲示物など、学習環境を整備し、どの学級でも学び合えるようにする。③単元全体と本時めあての確認と振り返りの時間の際は、ICTを効果的に活用し、子どもが自分の学びを選択・調整しながら学習を進められるようにする。	
担当	A部会	

学力向上に関わる本校の状況

令和7年度



(1) 学力に関わる児童の実態

(令和7年度 横浜市学力・学習状況調査より)

○学力の項目を見ると、多くの学年で横浜市平均を上回る結果になっている。教科で見ると国語科は平均より約1.8ポイント高く、算数科は市平均より約1.6ポイント高い結果であった。

○学習意欲・生活意欲は令和6年度よりも低い結果であり、学年による差が大きくなっている。

(2) これまでの取組状況

○昨年度の前期、教職員と子どもの思いをもとに、学校教育目標を設定した。その中で、「自らの学びを調整する姿」と「ともに高め合う姿」を教科横断的に目指すこととなり、コンピテンシー(資質・能力)を高めていくことを職員で共通理解した。そのため昨年度は、研究授業の実践数が例年の三分の一になってしまった。

今年度の目標

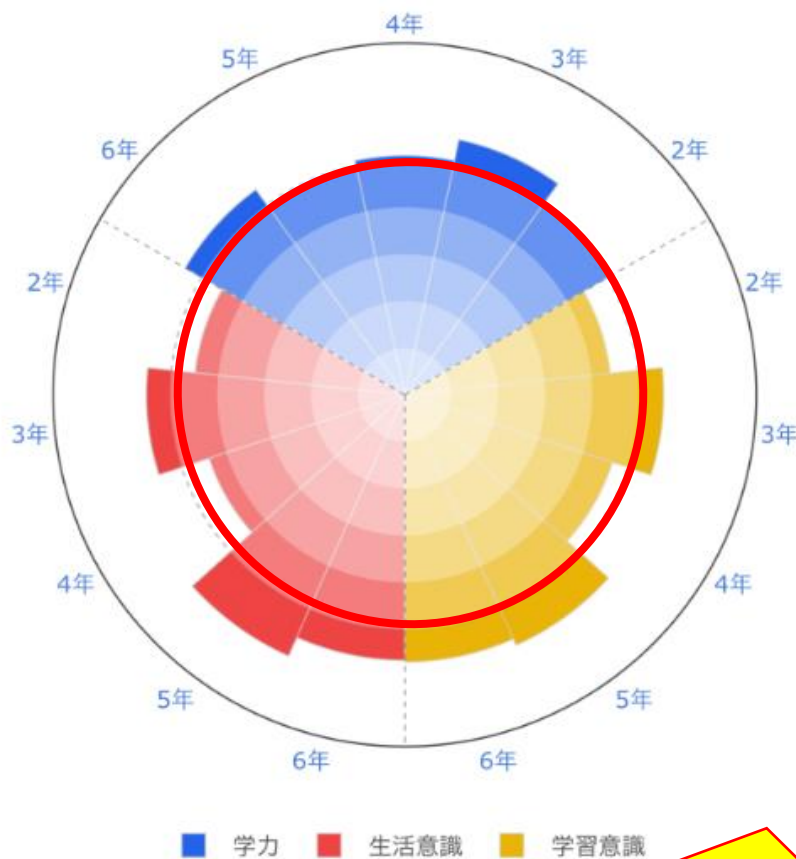
「自ら学びを調整し、ともに高め合う子ども」の実現を目指し、教科横断的な資質・能力を育成するための手立ての具体化(主に、国語科・生活科・総合的な学習の時間における手立ての充実)

目標を実現するための具体的な行動プラン

上半期	○学年やブロックで年間総合的な学習の時間の活動計画について検討を行うとともに、立ち上げ研修や講師による講演会を開くことで総合的な学習の時間の充実にを図る。
	○A2版のホワイトボードや掲示物など、学力や学習意欲を向上に向けた教室の学習環境を整備し、どの学年・学級でも質の高い授業を行うようにする。
	○教職員で作成した「自ら学びを調整し、ともに高め合う子ども」を育成する教科を横断する資質・能力の表を意識した授業を行い、学習意欲と学力の向上を図る。
	○「AIDリル(スマイルネクスト)」の利用を積極的に行い、学校と家庭で連携して基礎的な知識を身に付ける。
下半期	○一人1回の授業研究を実施し、教員一人ひとりの授業力向上を図る。また、事後研究会で検討したことを、他学年・他学級でも生かせるような、研究推進部からの発信を行う。
	○ICT機器を積極的に用いて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実にを図る。
	○年度末に研究のまとめを行い、次年度により多くの教科・領域で、教科横断的な資質・能力を育成するためにどのような手立てを行っていくべきかを考え、研究の方向性をまとめる。

市学力・学習状況調査の結果から

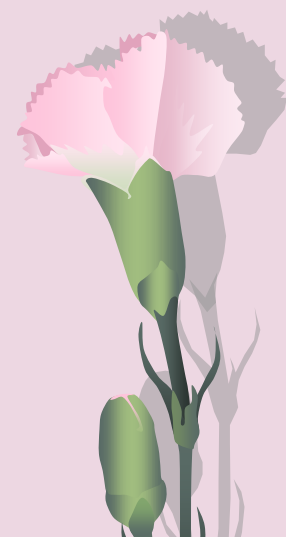
令和7年度



※昨年度実施

生活意識・・・朝食の有無、一日の家庭学習や読書の時間、自分のことや人との関わりについて等

学習意識・・・学習に進んで取り組んでいるか、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとしているか、各教科への取り組み方等



学力の概要と要因の分析

○多くの学年で市平均を上回る結果となった。

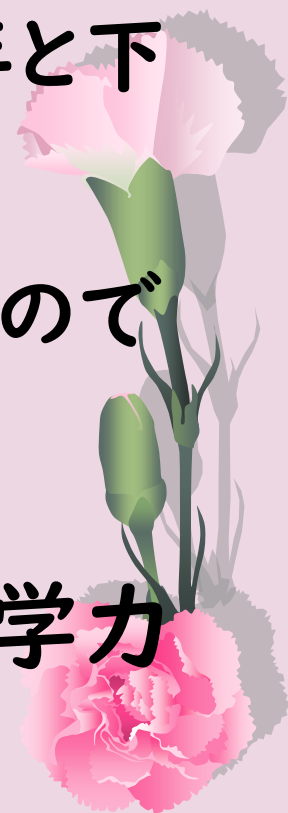
→3年連続で市平均を上回っており、AIドリルの活用や教員の授業力が伸びていることが要因の一つと考えられる。

○生活・学習意識は、市平均を上回る学年と下回る学年がある。

→生活意識・学習意識と相関性が見られるので家庭と学校との連携を高めていく。

今後は

「学力のさらなる向上」と「見えない学力（非認知能力）」の育成を図る。



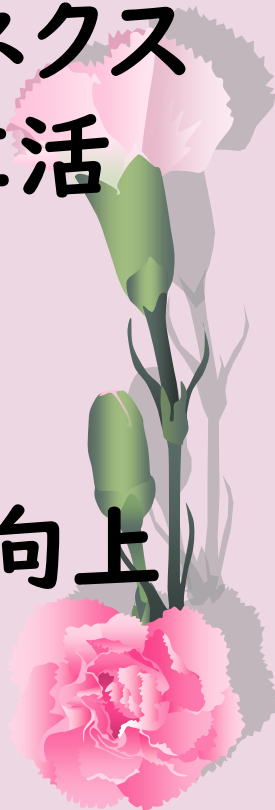
学力のさらなる向上に向けて

① 「AIオンラインドリル」の活用

→3年前から利用している、「スマイルネクスト」を、家庭学習や朝学習の時間などに活用し、基礎基本の定着を図る。

② 教師の授業力の向上

→研修や授業研究を通して、授業力の向上を図る。



見えない学力（非認知能力）の育成に向けて

非認知能力とは・・・

「主に意欲・意志・情動・社会性に関わる三つの要素（①自分の目標を目指して粘り強く取り組む②そのためにやり方を調整し工夫する③友達と同じ目標に向けて協力し合う）からなります」（文部科学省）



見えない学力（非認知能力）の育成に向けて

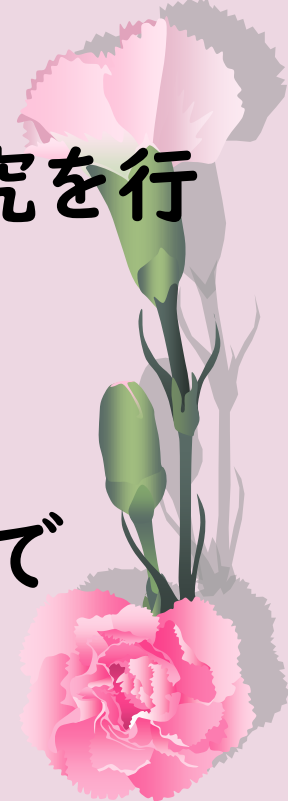
教員間で「自ら学びを調整し、ともに高め合う子ども」を育成するための資質・能力を整理する。



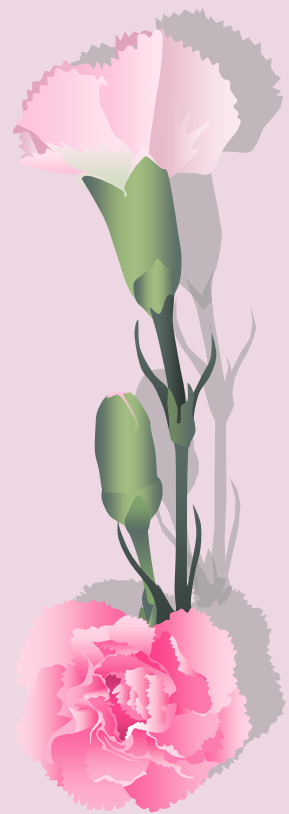
その資質・能力の育成のために、授業研究を行い、指導の手立てを検討する。



明らかになった手立てを共有し、各教室で実践する。



豊かな心の育成について



豊かな心の育成推進プラン

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童の実態

〈令和7年度児童アンケートより〉

友達と協力して学びを広げたり、ペア学年や地域の方など自分とは異なる立場の人のことを考えて取り組んだりすることを通して、9割以上の児童が達成感を得ている。他者との関わりを通して学ぶよさを感じているといえる。一方、自分の考えを伝えたり、困ったとき相談して問題を解決したりしようとする児童は、9割に達していない。自ら考えを発信したり、課題を解決したりするなど、主体的に行動することに課題があると考えられる。ICTの活用については、児童の学習ツールとして定着してきていることが伺える。

(2) これまでの取組状況

学校教育目標に対する合い言葉が「管小養歌」として児童に親しまれており、本校の教育活動の土台として浸透している。年間を通したペア学年活動や人権の取組により、相手の立場を理解したり自己有用感を高めたりすることにつながってきている。また、年2回のYPAセッションと横浜プログラムの実践を通して、児童の実態把握を行い、具体的な問題解決につながる取組を学級経営に取り入れている。

令和7年度 学校評価 児童アンケート	そう思う	思う	あまり思わない	思わない
② 授業で友達と協力したり話し合ったりすることで学びを広げることができる。	56%	35%	8%	2%
③ ここにペア活動や学校・学年の行事で合い言葉をめざして友達と協力したり一生懸命取り組んだりするよさを感じている。	53%	35%	10%	2%
④ 道徳の授業でじっくり考えたことを伝え合い、自分の生活をふり返ることができる。	50%	35%	11%	4%
⑥ ここにペア活動や地域の方と関わる活動で、相手のことを考えて取り組んでいる。	56%	35%	6%	3%
⑤ 自分も友達も安心して学校生活が送れるように困ったことは話をしたり誰かに相談したりして解決しようとしている。	47%	36%	12%	5%
⑧ タブレットを活用して自分にあった学習方法を選択したり友達と協力したりして学習に取り組んでいる。	60%	29%	9%	3%

今年度の目標

道徳の授業実践や年間を通した人権の取組等を通して、自己理解と他者理解を深めるとともに、ICTを活用した話し合いの場を設定し、多面的・多角的な思考力を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 「自分からあいさつをしよう」を年間目標として継続し、ハッピースマイル委員会を中心に休み時間の挨拶運動を実施する。
- 委員会活動では、学校の合い言葉や各委員会の目標を意識し、掲示や放送を活用しながら全校に発信するなど、児童の主体的な活動を促していく。
- 道徳の授業では、ICTを活用しながら児童同士の対話を深めることを通して、多面的・多角的に考えられるようにする。
- 年間を通した人権の取組を通して、様々な立場の人がいることを知り、他者理解を深めるとともに、社会の一員として自分にできることは何か、考えをもてるようにする。
- ペア学年活動や異学年交流では、活動のふり返りをこまめに行い、次の活動に生かすことで、達成感や自己有用感を高めしていくようにする。

下半期

- 上半期のふり返りをもとに、ハッピースマイル委員会を中心として、朝の挨拶運動を実施するなど、より広がりのある活動を展開する。
- 各委員会ごとに年間の取組をふり返る時間を確保し、次年度の活動計画に生かすことで児童の主体的な取組につなげていく。
- 道徳の授業では、上半期に実践してきたふり返りの仕方について全教職員で共有するとともに、児童の実態や主題にあった方法を取り入れながら、児童の多面的・多角的な思考力を高めていく。
- 音楽朝会や運動会等の行事では、全力で取り組んだり全校で協力したりするよさを味わうことを通して、豊かな心の醸成を図る。



重点取組目標

- ❁ 本校の合言葉を意識し、学校教育活動全体を通して「豊かな心」の育成を目指す。
- ❁ 年間を通じたペア学年活動や学校行事から豊かな感性や情操を育むとともに、自他を尊重する態度を養うことを目指す。
- ❁ 道徳科の授業では、対話やICT機器の活用を通して多面的、多角的な考えに気付くとともに自己を見つめ、なりたい自分をイメージすることができるようにすることを旨す。



4つの指針

- 1 友達の意見や思いを聞き、多面的、多角的な考え方に気付く力
道徳の時間、特別活動、ICT機器の活用した授業など
- 2 相手の気持ちに寄り添って考えたり、行動したりする力
にこペア学年活動、委員会活動など
- 3 自尊感情や人権意識を高め、自分のよさや友達のよさに
気付き、思いやりのある行動につなげる力
道徳の時間、集会活動、特別活動、横浜プログラムを活用した授業、
年間を通した人権の取組など
- 4 仲間と力を合わせようとする心、活動を楽しむ心
集会活動、行事、校外学習、体験・宿泊体験学習など



文化的活動

にこペア学年
活動

特別活動

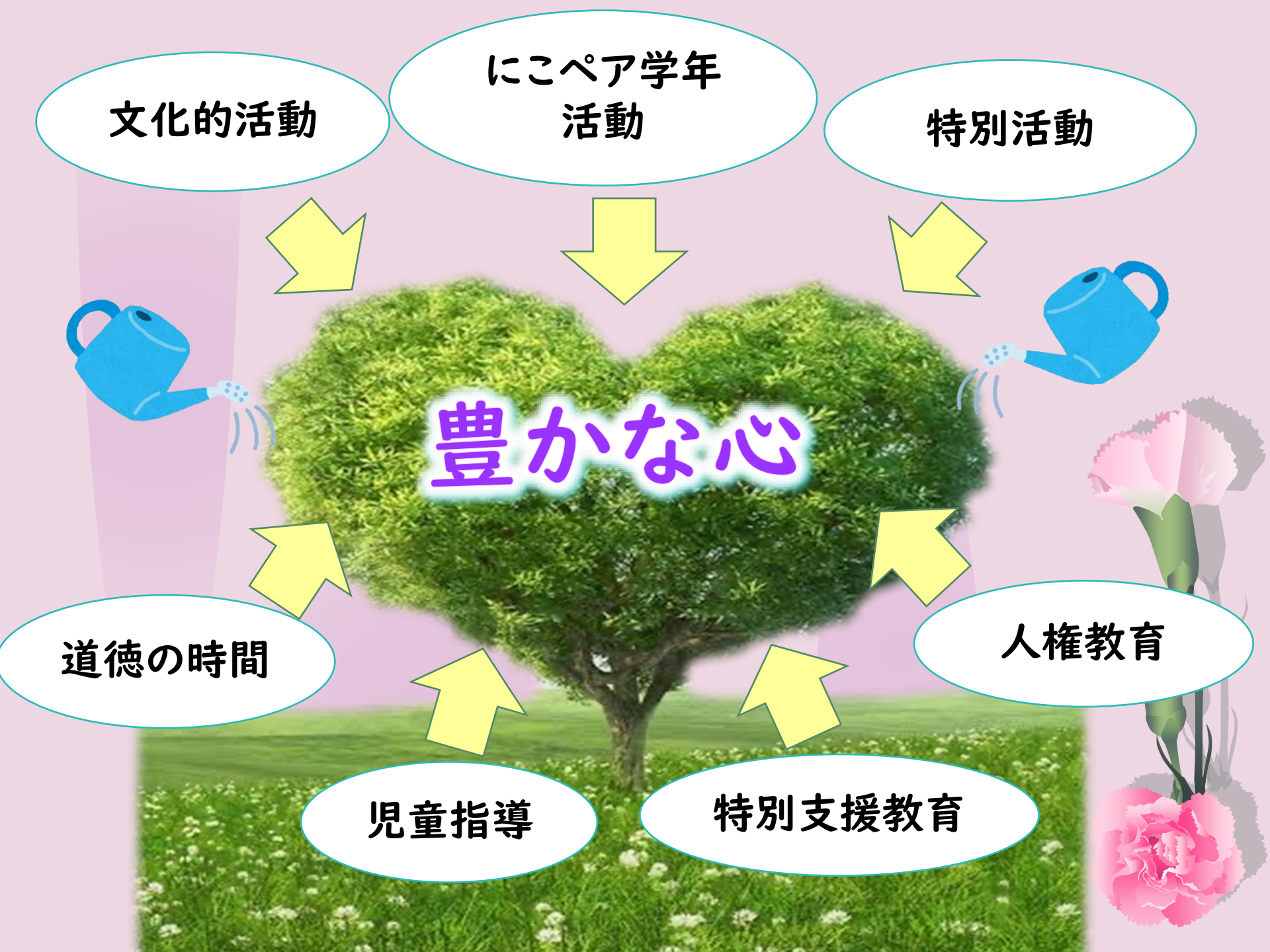
豊かな心

道徳の時間

人権教育

児童指導

特別支援教育



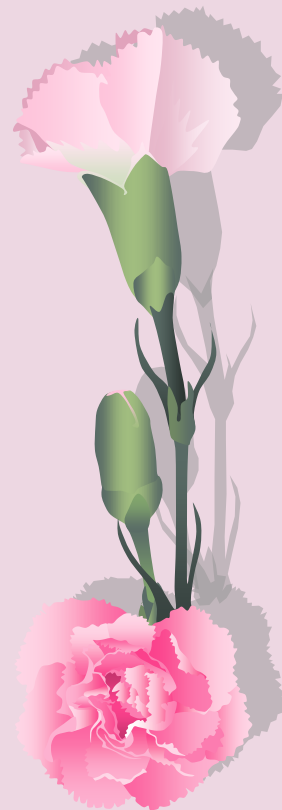
具体的な取組

児童理解・児童指導

年間目標に『自分からあいさつしよう』を掲げ、他者とコミュニケーションを取り合えるよさを意識付けしていく。

学校教育全体で行う道徳教育を要の時間として、他者との対話を通して多角的・多面的な見方、考え方にふれるとともに、自己を見つめ直す授業づくりを心掛ける。

朝の健康観察、児童の情報共有、アンケート実施後の児童面談を通して、全職員で全児童を支援していく。



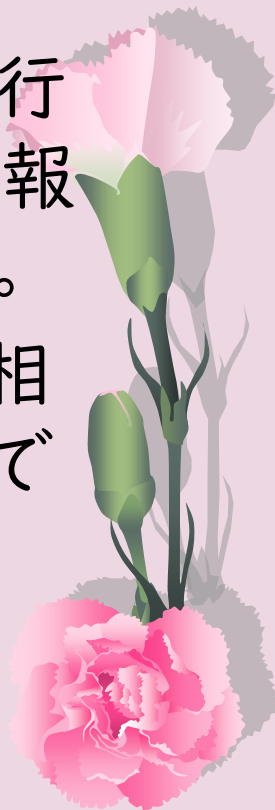
具体的な取組

特別活動の時間・人権教育

人権教育の視点から、人との出合いや関わりを大切にし、思いやりの心や他者を尊重する人権意識を育む。

年間を通して学年ごとに人権に関する取組を行っていくとともに、福祉委員会を中心に集会や広報活動を行い、全校児童の人権意識を高めていく。

日常の学校生活の中で友達を思いやる姿や相手を尊重する姿を教師が称賛したり、友達同士で認め合ったりする時間を大切にする。



具体的な取組

🌸 特別支援教育

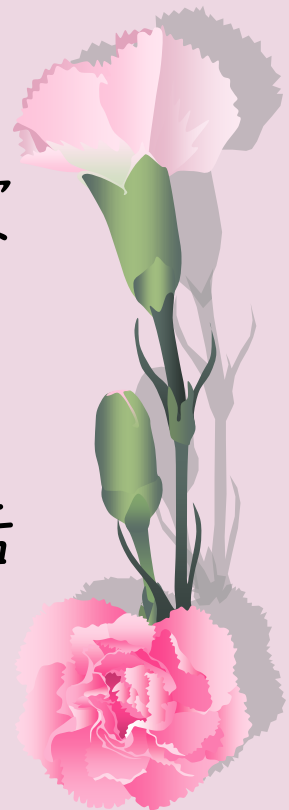
支援員や特別支援教室（「笹っ子教室」）を活用したり、学習形態を工夫したりすることで、一人ひとりが自信をもって学校生活を送ることができるように支援し、自尊心を高めていく。

🌸 文化的な活動

行事や音楽集会、近隣校との交流（作品鑑賞など）を通して豊かな心を育てる。

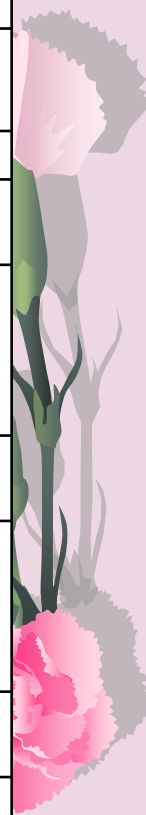
🌸 にこペア学年活動

ペア学年集会や、にこペアデーなど、様々な活動を行う中で、相手に寄り添って考え、行動する心を育てる。



いじめ未然防止・早期発見に向けた取組<年間計画>

月	取組内容	
	児童・学校	保護者・地域
4	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画と重点指導内容等の確認 ・児童理解研修(「いじめ防止基本方針」共通理解等) ・学校生活の約束の確認(笹小スタンダード等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針ホームページ掲載 ・保護者面談
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ早期発見のための生活アンケート実施(記名式)」 ⇒児童面談、教育相談 ・中学校ブロック専任定例会① 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域訪問 ・学校紹介ホームページ掲載
6	<ul style="list-style-type: none"> ・YPアセスメント実施① ・中学校ブロック専任定例会② ・SNSトラブル・防犯教室実施(旭警察署) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学家地連総会 ・学校運営協議会
7	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動週間 ・横浜子ども会議(中学校ブロック) ・横浜プログラム(SOSの出し方教育プログラム)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談 ・地区懇談会
8	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜子ども会議(旭区交流会) 	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教諭夏季研修に基づく校内研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会
10	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ブロック専任定例会③ 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・YPアセスメント実施② ・いじめ解決一斉キャンペーン実施(無記名式アンケート) ⇒児童面談、教育相談 ・中学校ブロック専任定例会④ 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・人権月間・いじめ防止月間の取組 ・中学校ブロック専任定例会⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談
1	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止安全教室実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会
2	<ul style="list-style-type: none"> ・校内いじめアンケート実施⇒教育相談 ・幼稚園・保育園・中学校との引継ぎ ・中学校ブロック専任定例会⑥ 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の振り返り、新年度への引継ぎ ・笹小スタンダード、いじめ防止基本方針の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・学級懇談会 ・学家地連総会
年間	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会(月1回・随時)・横浜プログラムの実施 	



豊かな心を育む（いじめ未然防止・早期発見）のための取組

職員研修

いじめ・人権に関する研修を年間を通して実施

共通理解

- 笹野台小学校いじめ防止基本方針について共通理解

アンケート調査

- 生活に関するアンケート
- YPアセスメントシート

豊かな心を育む取組

- 子どもの社会的スキル「横浜プログラム」
- 各学級での取組（認め合い・係活動等）

保護者面談

- 「児童の思いや様子」、「豊かな心を育む取組」等について情報共有。

豊かな心を育む（いじめ未然防止・早期発見）のための取組 4月～8月

月	内容		留意点
4月	共通理解	いじめ防止基本方針について職員で共通理解を図る。	前年度3月職員会議にて内容を検討し改訂する。
4月～5月	保護者面談	家庭と学校での児童の様子を共有し、困りごとや実態を把握する。	※ 児童が嫌な思いをしていることが分かったときは本人に寄り添い対応する。
5月	生活アンケート 第1回	第1回「生活に関するアンケート」(記名式)実施 →結果の確認(実施日のうちに) →必要に応じて児童面談・教育相談	アンケートを基に、本人に寄り添い対応する。
適宜		臨時いじめ防止対策委員会(アンケート結果に応じて実施) →児童に事実確認・必要に応じて話し合い、保護者連絡	
6月～	セサメント 第1回 YPア	第1回YPアセスメント実施 →データ入力 →分布図作成・読み取り(専科・学年職員で共有) →学級風土チェック(専科・学年職員で共有)	※ 学年で各クラスの課題を検討して見出し、その克服のための手立てを計画する。
「第1期 豊かな心を育む取組」6月～11月 (第2回YP実施までの間)			
学年職員で計画した各学級ごとの手立てを実施する <例> ・子どもの社会的スキル・対話力を伸ばす「横浜プログラム」の実施 ・年間を通して帰りの会で友達の素敵な姿を認め合う時間を設ける ・係活動の時間を工夫し、一人ひとりが活躍できる場、認め合える場をつくる ・学級の「〇〇の達人」など、子どもの自己肯定感を高める活動を行う ・YPの結果から抽出児童を設定し、継続的な声掛けや支援を行う			
7月	保護者面談	7月上旬、担任が保護者と面談を実施する。 児童の様子・豊かな心を育む取組等について情報共有する。	※ 本人に寄り添い対応する。
7月	横浜プログラム	横浜プログラム「SOSの出し方教育プログラム」実施 →児童がSOSを出したり、友達のSOSを受けたとき、適切に対処する力を高める。	※ 長期休暇前に取り組む。 ※ 学年で実施するプログラムを検討する。
随時	職員研修	いじめに関する研修 ・具体的事案への対応の仕方(物の破損・悪口・暴力・SNSいじめ) ・傾聴訓練(聞き取りの留意点)	※ 専任教諭研修を生かして校内で実施する。

豊かな心を育む（いじめ未然防止・早期発見）のための取組 9月～年度末

月	内容		留意点
9月	研修	いじめに関する研修（事例研修）	※ 横浜市教育委員会指導
11月	生活アンケート	第2回「生活に関するアンケート」（無記名式）実施 →結果の確認（実施日のうちに） →必要に応じて児童面談・教育相談 →データ入力	※ 本人に寄り添い対応する。
適宜		臨時いじめ防止対策委員会（アンケート結果に応じて実施） →児童に事実確認・必要に応じて話し合い、保護者連絡	
11月	ト YP第2回アセスメン	第2回YPアセスメント実施 →データ入力 →分布図作成・読み取り（専科・学年職員で共有） →学級風土チェック（専科・学年職員で共有）	※ 学年で各クラスの課題克服に向けた進捗状況を確認し、その実現に向けた道すじを再構築する。
「第2期 豊かな心を育む取組」11月～年度末			
<p><例えば></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの社会的スキル・対話力を伸ばす「横浜プログラム」の実施。 ・年間を通して帰りの会で友達の素敵な姿を認め合う時間を設ける。 ・係活動の時間を工夫し、一人ひとりが活躍できる場、認め合える場をつくる。 ・学級の「〇〇王」など、子どもの自己肯定感を高める活動を行う。 ・YPの結果から抽出児童を設定し、継続的な声掛けや支援を行う。 			
11月	研修	人権・福祉に関する研修	
12月	面談保護者	12月上旬の5日間で担任が保護者と面談を実施する。 児童の様子・豊かな心を育む取組等について情報共有する。	※ 思いに寄り添い対応する。
年度末	振り返り	今年度の取組を振り返り、次年度への反省をまとめる。	※ いじめ防止基本方針についても見直しを行う。
通年	児童理解	毎月1回の「児童理解」の時間（いじめ防止対策委員会を含む）にて、全職員で児童の状況を共有し、対応方針について共通理解を図る。	※ 学校全体の様子や時期的な傾向に対する留意点についても共通理解を図る。
通年	人権取組	人権の取組（出前授業等） 児童が自他ともに大切にし、誰に対しても差別することなく、公正公平に接することについて考える取組を行う。	※ 福祉委員会を中心に広報活動を行い、全校児童の人権意識を高める。

いじめ・人権に関する職員研修（令和7～8年度）

🌸 傾聴訓練（児童支援専任・児童指導部）

- ❖ 児童が話しやすい声掛け・環境づくり

🌸 いじめに関する研修（横浜市教育委員会指導）

- ❖ 事例への対応の仕方

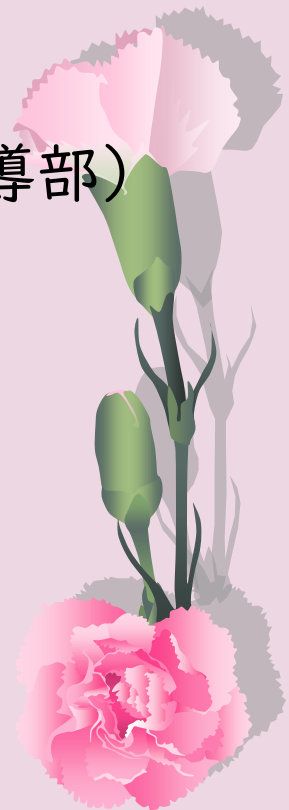
🌸 特別支援教育・インクルーシブ教育（児童指導部）

- ❖ 相互理解・共生・協働的な学び・UDの推進

🌸 ICT機器の活用研修（児童指導部）

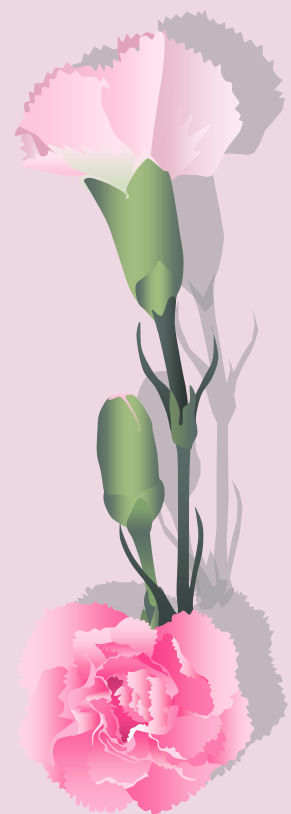
🌸 YPアセスメント（児童指導部）

- ❖ アセスメントから児童の実態を捉える

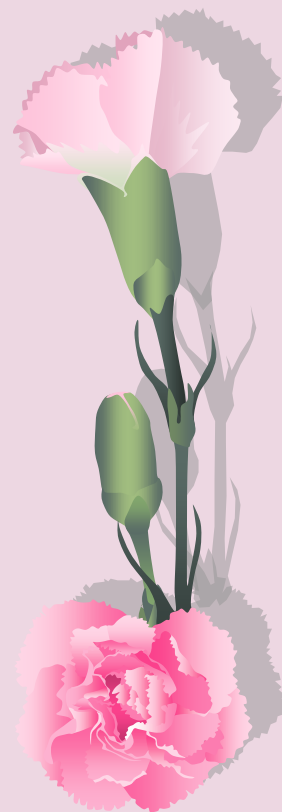


笹野台小学校 いじめ防止基本方針

 笹野台小学校いじめ防止基本方針 - 笹野台小学校 (yokohama.lg.jp)



健やかな体の育成について



健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
健康教育	①ロング昼休みに加え、長縄集会等の委員会からの提案を取り入れ、楽しみながら運動に取り組めるようにする。②日々の学習や診断・調査の分析をする機会を通して、児童が自身の課題に気づき、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を養う。③授業や委員会からの提案、学校保健委員会の取組を通して、より健康・安全に過ごしたいという思いをもって生活を送ることができるようにする。	
担当	C部会	

健やかな体に関わる本校の状況



(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態
令和7年度の新体力テストの結果を見ると、ほとんどの学年で横浜市平均を超えていた。しかし、生活実態は、昨年度に比べ低下傾向が見られ、学年や男女によって差があった。運動部やスポーツクラブに入っている割合が高く、学校の体育の授業以外で運動やスポーツをする時間が長い。このことから、日常的に運動することが体力の向上につながっていると考えられる。運動面では50m走、立ち幅跳び、20mシャトルラン、上体起こしの記録が市平均を上回っている児童が多く、ボール投げ、長座体前屈の記録が市平均を下回っている。日常の遊びやスポーツクラブで持久力や瞬発力を高めている一方で、柔軟性に課題があると考えられる。

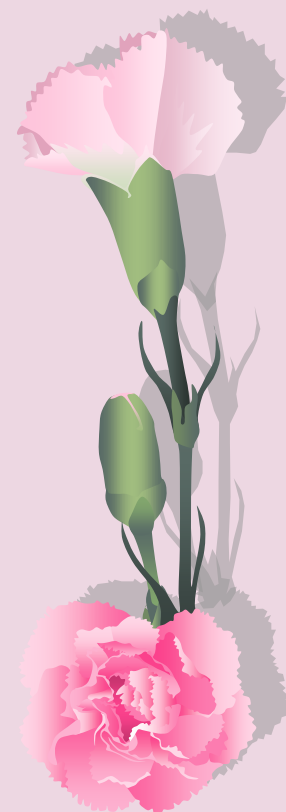
(2) これまでの取り組み状況
本校では運動委員会が鬼遊びや長縄集会を計画したり、晴れの日には教員が積極的に声を掛けたりすることで、普段休み時間に運動に取り組まない児童も運動する機会を促している。また、体育科学習で運動の特性に触れる楽しさを味わうような授業づくりを行うことで、児童が進んで運動に取り組めることを目指してきた。

今年度の目標

体育科学習や委員会企画の集会活動、学校保健委員会の取組を通して、一人ひとりが多様な動きを経験し、自ら進んで運動に親しみ、健康の保持増進を目指すとする姿を目指す。

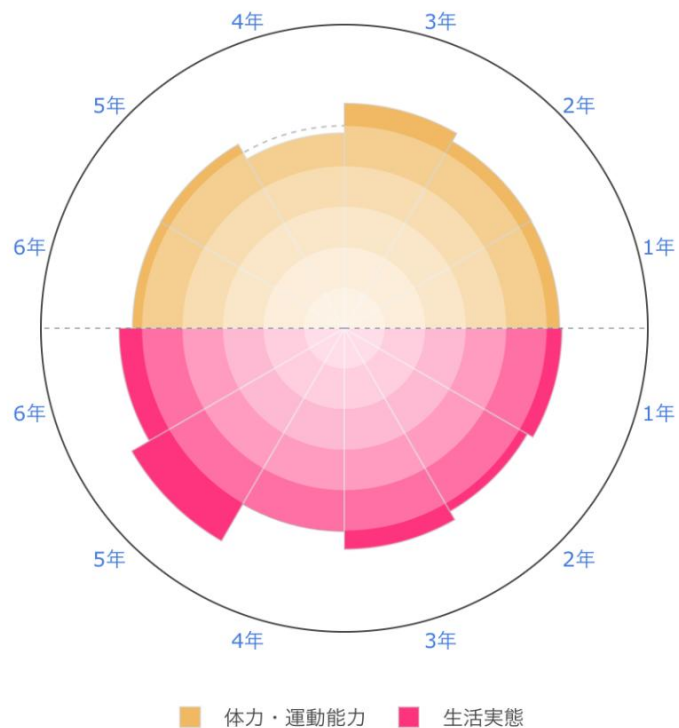
目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<p>《体育科・保健体育科での取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科学習で子どもたちが運動の特性に触れる楽しさを味わうために、教職員で実技研修を実施し、教員自身が運動の楽しさを実感しながら、指導の仕方を学ぶ。 ・学習資料や学習用具を工夫し、子どもたちが「できる・わかる」楽しさを感じる手立てを打つことで、進んで学習に取り組めるようにする。 <p>《他教科での取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科や学活などで、食教育との関連を図り、学習の充実をめざす。 ・自らを大切にするとともに、希望や願い、向上心をもって体力向上や健康安全に向かえるように、道徳との関連を図っていく。 ・年間を通して食育ワークに取り組み、自ら進んでよりよい食生活を実践できるようにする。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・運動委員会や鬼遊びや長縄集会、球技大会などを計画し、年間を通して、楽しみながら運動に取り組むことができるようにする。 ・学校保健委員会の取組で、自分の課題を分析したり、課題に合う活動を選択したりすることで、健康の保持増進を目指すことができるようにする。 <p>・食に関する指導の全体計画に基づき、給食週間や食育の日等に食に関する指導を重点的に行う。</p> <p>・食に関する指導を給食の時間だけでなく、教科・領域でも指導できるように、食に関する指導の全体計画を見直す。</p>

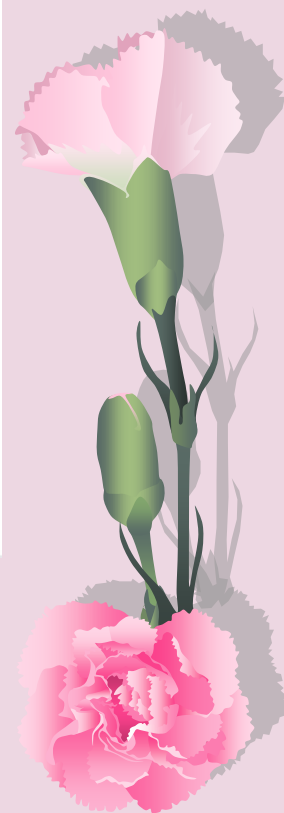
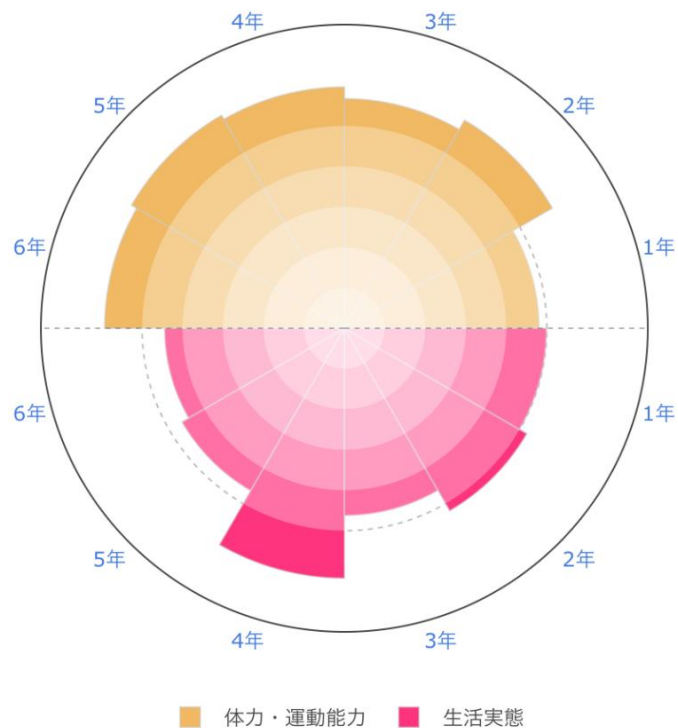


体力・運動能力調査の結果から

令和7年度 男子

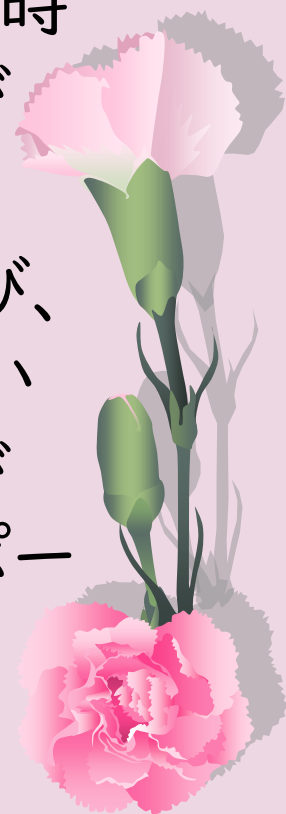


令和7年度 女子



令和7年度 実施した結果から

- ❁ ほとんどの学年が横浜市平均を超えているが、生活実態は、学年や男女によって差がある。
- ❁ 運動部やスポーツクラブに入っている割合が高く、学校の体育の授業以外で運動やスポーツをする時間が長い。このことから、日常的に運動することが体力の向上につながっていると考えられる。
- ❁ 運動面では市平均と比べて、50m走、立ち幅跳び、20mシャトルラン、上体起こしの記録が上回っている児童が多く、ボール投げ、長座体前屈の記録が下回っている児童が多かった。日常の遊びやスポーツクラブで持久力や瞬発力を高めている一方で、柔軟性や巧緻性に課題があると考えられる。

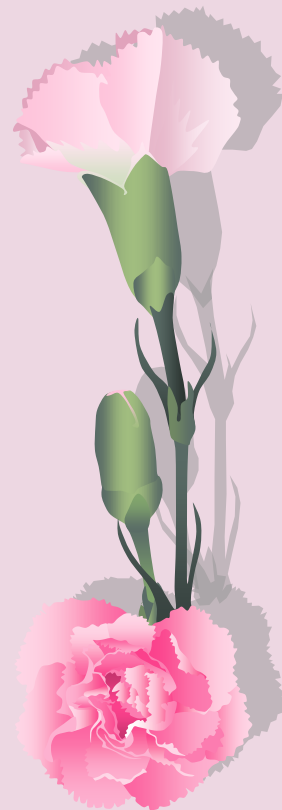


体力向上に向けての学校の取組

- ❁ 晴れの日の外遊びに加え、月に一度、ロング昼休み(30分遊び)の時間を設定して、友達と外で元気よく遊ぶ心地よさを味わえるようにする。
- ❁ 委員会活動を中心に、鬼遊びや長縄集会、球技大会などを計画し、年間を通して、楽しみながら運動に取り組むことができるようにする。
- ❁ 学校保健委員会の取組で、自分の課題を分析したり、課題に合う活動を選択したりすることで、健康の保持増進を目指すことができるようにする。
- ❁ 年間を通して食育ワークに取り組み、自ら進んでよりよい食生活を実践できるようにする。



今年度の重点研究について



重点研究とは・・・

- ❁ 笹野台小学校で設定した研究テーマに沿って、授業研究を行う。
- ❁ 年間を通し、授業改善のための研究授業を行う。
- ❁ 外部講師を呼び、研究を深めるための協議を行う。
- ❁ 今年度は、学習指導要領及び学校教育目標を基に、教員間で「笹野台小学校の児童がどんな子どもになってほしいのか」を整理し、その姿を目指すための手立てを探っていく。

研究・研修は教職員の責務であり、わたしたち教職員は常に、授業改善に取り組んでいます。



令和8年度 研究主題

『「自ら学びを調整し、
ともに高め合う子」の育成』

～教科を横断する資質・能力を育成する授業づくり～



昨年度の研究の流れ

子どもたちに「どんな学校にしたいか」のアンケートを取り、教員が「どんな子になってほしいか」検討し学校教育目標の見直しを行った。



子どもたちの思い



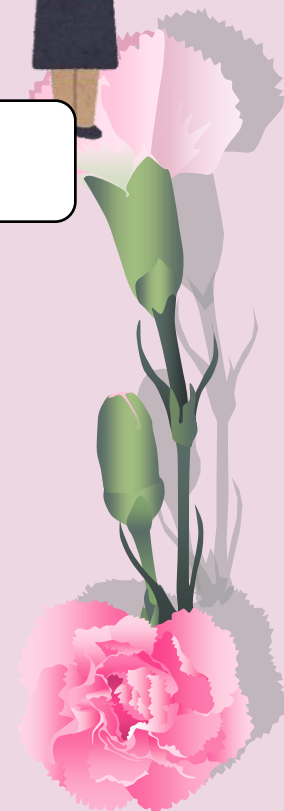
教員の思い

学校教育目標

自ら学び

人と関わり

ともに高め合う 笹野台の子ども



昨年度の研究の流れ

学校教育目標

自ら学び

人と関わり

ともに高め合う 笹野台の子ども



この目標を実現するために・・・

研究テーマの
設定

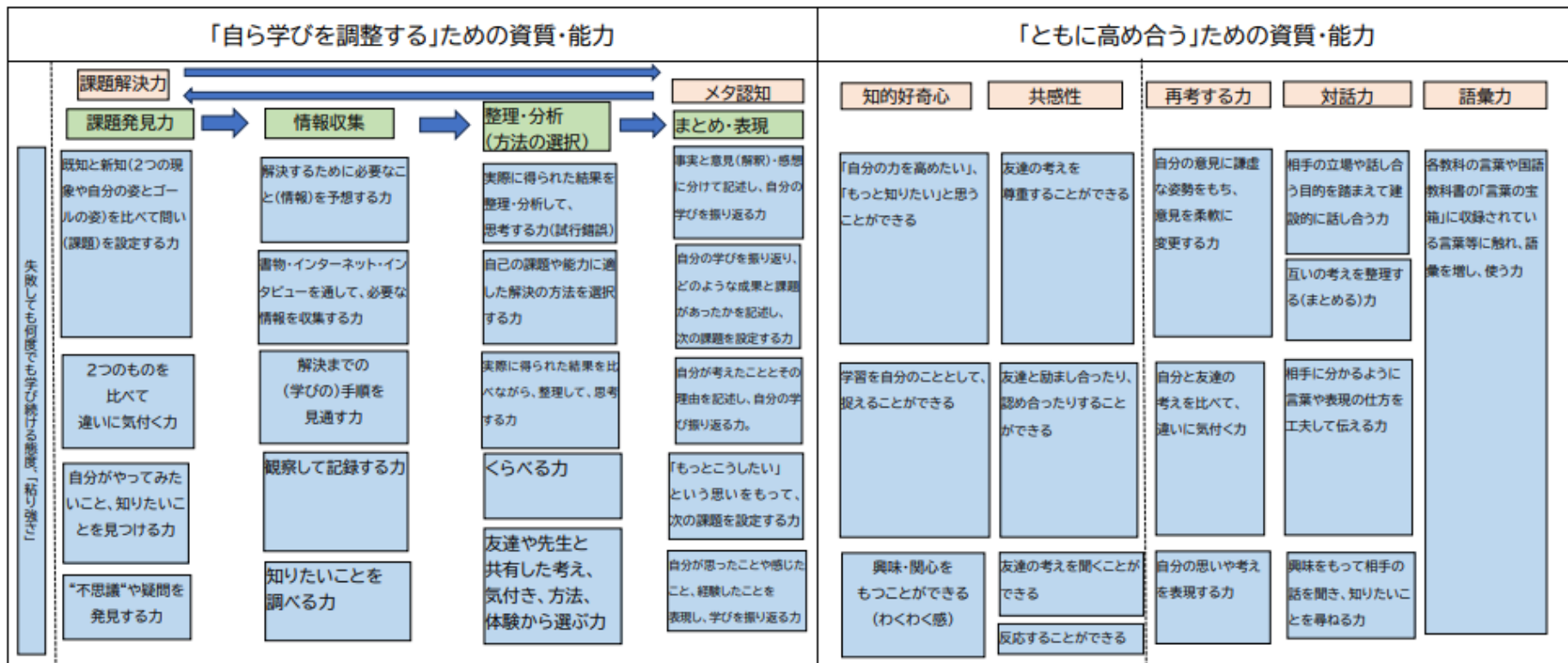
どんな手立てが
有効かの検討

『「自ら学びを調整し、ともに高め合う子」の育成』
～教科を横断する資質・能力を育成する授業づくり～

どんな資質・能力
が必要か検討

授業実践を
やってみる



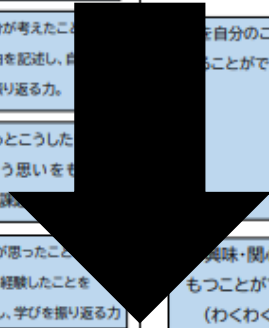


【手立ての例】



「自ら学びを調整する」ための資質・能力		「ともに高め合う」ための資質・能力					
<p>課題解決力</p> <p>課題発見力</p> <p>情報収集</p> <p>解決までの(学び)手順を見通す力</p> <p>観察して記録する力</p> <p>知りたいことを調べる力</p>	<p>メタ認知</p> <p>知的な好奇心</p> <p>共感性</p> <p>再考する力</p> <p>対話力</p> <p>語彙力</p>	<p>既知と新知(2つの現象や自分の姿とゴールの姿)を比べて問い(課題)を設定する力</p> <p>2つのものを比べて違いに気付く力</p> <p>自分がやってみたいこと、知りたいことを見つける力</p> <p>“不思議”や疑問を発見する力</p>	<p>解決するために必要と(情報)を予想する</p> <p>書物・インターネット・インタビューを通して、必情報を収集する力</p> <p>実際に得られた結果を比べながら、整理して、思考する力</p> <p>くらべる力</p> <p>友達や先生と共有した考え、気付き、方法、体験から選ぶ力</p>	<p>自分が考えたこと、理由を記述し、振り返り力。</p> <p>「もっとこうしたい」という思いを次の課題に設定する力</p> <p>自分が思ったこと、経験したことを表現し、学びを振り返る力</p>	<p>自分のこととして、自分のこととすることができる</p> <p>友達と励まし合ったり、認め合ったりすることができる</p> <p>自分の思いや考えを表現することができる</p> <p>反応することができる</p>	<p>相手の立場や話し合う目的を踏まえて建設的に話し合う力</p> <p>互いの考えを整理する(まとめる)力</p> <p>相手に分かるように言葉や表現の仕方を工夫して伝える力</p> <p>自分の思いや考えを表現する力</p> <p>興味をもって相手の話を聞き、知りたいことを尋ねる力</p>	<p>各教科の言葉や国語教科書の「言葉の宝箱」に収録されている言葉等に触れ、語彙を増し、使う力</p>

令和7年度の研究を通して、学校教育目標の実現に必要な資質・能力と手立てを表に整理できた



今年度は、国語科・生活科・総合的な学習の時間・音楽科・図画工作科の研究授業を行います。その授業実践をもとに、この表をアップデートしていき、学校教育目標の「自ら学び、人と関わり、ともに高め合う笹野台の子ども」の育成を目指します。

【手立ての例】

- グループ(対話の)
- 導入の工夫
- 自己選択・自己決定の余地
- 学習計画表(ゴールの共有)
- ICT機器の活用
- インターネットの使い方(生成AIの使い方)



ご覧いただき
ありがとうございました。

